

# 2018年度 地域プロジェクト演習 公開発表会プログラム

2018年9月11日 (火) 15:00~17:00  
まこまないキャンパス まちの講堂

- 1 開会にあたって デザイン研究科長 石井雅博 教授
- 2 各グループの発表
- 3 閉会にあたって デザイン研究科長 石井雅博 教授

司会：松永康佑 講師、片山めぐみ 講師

【発表：16分、質疑応答：8分、入換1分、計25分】

予定時刻	タイトル/発表概要		グループ構成員
15:05 )	【タイトル】	厚真町プロジェクト2018～旧幅田邸移築後の用途提案～	棚元はな子 河口紘亮 坂元文 佐竹都築 田邊和音 津田唯子 津野柚衣 宮崎智仁
	【発表概要】	札幌市立大学と厚真町の連携による「厚真町プロジェクト」としてこれまで行ってきた古民家の調査や、今回の現地調査によって得られた新たな成果をもとに、旧幅田邸移築後の用途や敷地計画について具体的な提案を行う。近年、観光客のニーズが体験学習などを目的とする「着地型観光」へ変化しているが、現在の厚真町は宿泊施設の不足という問題を抱えている。このような問題を抱える一方、今回の調査では地方創生の第一線で活躍する岡山県西栗倉村の「エーゼロ株式会社」が厚真町に新たに地域商社を設立し、地域おこし協力体制度を活用した起業家人材の育成に力を入れているという前向きな活動がみられた。本プロジェクトでは「起業家人材の育成」という点に注目し、起業を目指す人々の支援を主な目的とした、ワークスペースを兼ね備えたゲストハウスを提案する。またここに一般の観光客の宿泊機能も備えることによって、両者の交流による厚真町の観光の促進を期待する。	
15:30			指導教員 羽深久夫 教授 片山めぐみ 講師
15:30 )	【タイトル】	病院レベルの感染症対策を提供する「感染管理会社」の設立に向けた付加価値の検討～「医療従事者が行なうトイレ清掃の検証」「感染症予防ゲームの作成」「IMJの清掃の実施・内容をトイレ利用者に伝えるアンビエント広告の提案」「清掃サービスの作業管理システムの考案」～	倉持歩 昆野照美 萩原亜津子 姚李菴
	【発表概要】	トイレの感染症対策を行う「感染管理会社（以降IMJ）」設立のための付加価値を検討した。IMJの課題を「専門性」「感染症予防知識の普及」「サービス利用層への理解」「作業管理システムの考案」と定め、次の4つの検討を行った。①トイレ清掃の観察を行い、医療従事者と一般人の清掃作業の差異を検出し、マニュアル作成時のポイントとなる事項を明確にした。②感染症予防を啓発することを目的としたボードゲームを作成し、一般人対象の使用実験を行い、短時間で楽しみながら感染症予防に関する知識を増やすことが可能であるとの知見を得た。③トイレ利用者にIMJの清掃が実施されたことを周知可能な紙石鹸を作成し、実証実験を通して、石鹸として認識される広告になっていることを確認した。④高品質の清掃サービスを維持するため、清掃員番号の登録、清掃時間の測定、清掃前後の汚染範囲の写真による記録といった作業管理システムを考案した。	
15:55			指導教員 柿山浩一郎 准教授 三谷篤史 准教授
15:55 )	【タイトル】	BtoB製品のインターフェースに関するユーザビリティ向上を目的としたデザインガイドラインの提案	伊藤史織 安田朱里 吉田傑
	【発表概要】	本演習では、企業向けの計測機器や制御システムの設計・製造等を手掛ける株式会社ハイテックシステムが提供するソフトウェアのインターフェースに関するデザインガイドラインを提案した。株式会社ハイテックシステムは、同社がこれまでに提供してきたソフトウェアのインターフェースデザインについて、統一性や一貫したデザインの指針を確立していないという課題を抱えていた。そのため、本演習では「デザインの統一によるユーザビリティの向上」を目的としたデザインガイドラインを提案した。同社が提供するソフトウェアの特性や開発環境を把握するために、既製品の分析、従業員への聞き取り調査、既製品のインターフェースデザインを改善したデモンストレーション画面の試作を行った。これらの結果を踏まえて、デザインガイドラインを作成した。	
16:20			指導教員 石井雅博 教授 若林尚樹 教授
16:20 )	【タイトル】	科学とアートに関する興味を引き出すことを目的としたアート作品の制作および展示	徐敏 三上拓哉
	【発表概要】	札幌市青少年科学館を会場とし、来場者を対象としたアート作品の制作および展示を行った。札幌市青少年科学館から制作する上で求められた要望は「科学・技術に興味を持てるもの」、「デザイン・芸術に関係するもの」というものであった。これらを踏まえ、以下の視点から作品を検討した。 ①科学館の展示と関連した展示内容、 ②科学技術を用い、先端的なアート表現を可能とするもの、 ③作品をきっかけとし、科学や技術に興味を持てること。 検討の結果、札幌市青少年科学館で人気の高い展示テーマである風力に関する作品制作を行うこととした。また風力を用いた表現方法の検討を行い、アート体験をきっかけとし科学・技術へ興味を持たせることを目的としている。展示では鑑賞した来場者のコメントを収集した他、鑑賞中の来場者の様子を録画した。これらの結果から、科学とアートに関する興味が増えることが確認できた。	
16:45			指導教員 藤木淳 准教授 松永康佑 講師